

令和8年度第1回静岡市男女共同参画審議会 会議録

1 日 時 令和8年7月1日（水）午前9時00分～午前10時30分

2 場 所 静岡市役所 新館 特別会議室

3 出席者 <出席委員> 相澤委員、葦名委員、板谷委員、磐村委員、鎌塚委員、
工藤委員、小寫委員、小森委員、斉藤委員、高畑委員、
谷口委員、法月委員、本間委員
<欠席委員> 田中委員、戸塚委員
<事務局> 社会的包摂推進課 興津課長、杉山補佐、
平松主査、奥村主任主事
<オブザーバー> 井藤女性会館館長

4 傍聴者 1人

5 会議内容

【1 開会】

【2 課長挨拶】

【3 事務局からの説明】

(1) 「第4次静岡市男女共同参画行動計画」見直しに係る全体スケジュールについて

【4 議事】

(1) 「第4次静岡市男女共同参画行動計画」計画の位置づけの見直し

(2) 「第4次静岡市男女共同参画行動計画」中間見直し内容についての審議

【5 事務連絡】

【6 その他】

【7 閉会】

(会議録)

【4 議事】

(1) 「第4次静岡市男女共同参画行動計画」計画の位置づけの見直し

【質問・意見】

斉藤委員 5次総に沿って色々な市の計画が作られていくと思うのですが、市全体の方針として5次総の計画期間に合わせる動きはありますか。

事務局 計画年度を5次総と合わせて2035年度までとするか、もしくは現行の期間のままとするかは、各個別の計画によって状況が異なるので、各所管課で検討することになっています。

男女共同参画行動計画は、5次総を制作する際に現行の行動計画から吸い上げて5次総に落とし込んでいるため、5次総の内容は現行の男女共同参画行動計画と相違ない内容となっています。そのため、今回の中間見直しでは内容も期間も大きな変更をする予定はありません。

谷口委員 私も計画期間の変更なしには大賛成です。社会の状況は大きく変わる可能性があり、計画期間を10年後としてしまうと、その間に変わったこと

を反映しにくくなってしまうためです。ただ、1つ懸念されうることで、国勢調査の結果が恐らく今年の秋に速報値が出てくると思います。家族形態の変容などが反映できるように、第2回の審議会あるいはパブリックコメントの時までにその情報が間に合い、反映できるといいと思いました。

事務局 国勢調査の結果がでるタイミング次第では、細かい内容まで盛り込むことができないかもしれませんが、情報が出た段階で速報として共有させてもらえればと思います。その中で突出した変化があるようでしたら、今回の見直しに入れるようご検討いただければと思います。

小畠委員 今の説明ですと、目指す姿は2035年まで伸ばして行動計画の計画期間は今まで通り2030年までということでした。そうすると目指す姿の到達点が伸びており、行動計画の終期と5年間の差があるというのに違和感があります。行動計画を2030年で区切るのであれば、そこを踏まえてまた2035年の目指す姿というのはブラッシュアップしていくものと感じています。

事務局 行動計画の目指す姿は何年後であっても変わらない姿であると考えています。しかし、今おっしゃっていただいたとおり、この姿が2030年時点で明確に達成されていれば、次期計画を考える際にももちろんその先の姿というのも検討されるべきだと思います。

(2)「第4次静岡市男女共同参画行動計画」中間見直し内容についての審議

【質問・意見】

◆「男性」という言葉をフラットな表現に変更する。

谷口委員 男性の方にお聞きしたいのですが、男性が男女共同参画を自分事とするために、どのような言葉だったら自分にむけられていると思っていただけるか教えてほしいです。

やはりマイノリティだけの問題でなく、マジョリティの意識が変わらないと社会は変わっていかないと考えています。政策決定の場である静岡市議会も女性議員が増えたとはいえ、まだ2割にも満たない状況の中で、あまり「男性男性」と言われると責められているような気持ちになることもわかりますが、どのような呼びかけであれば男性が響いてくださるか、お聞かせいただきたいと思いました。

板谷委員 私ども男性視点で考えた場合に、この「性別に関わらず」というこの言葉しかないかな、と感じました。

法月委員 「性別に関わらず」という言葉でも自分事として捉えられると思います。家事、子育て、介護などが女性の役割として世の中で意識されてしまっていますが、そうではなく男性も、という表現として十分だと思います。

葦名委員 文言をどう直すかという結論は出ていませんが、この章における社会問題の捉え方が「女性は産休育休を取りやすいが、男性は取りづらい」というところから出発しているように思います。現実では、女性も産休育休を取りづらい空気があり、根底にある社会の捉え方として、そもそも女性も簡単ではないというニュアンスを含めることができないかと思いました。

- 小森委員 この章全体で「男性が」という主語が多く「女性が」という主語が少ないように思います。もともと男性の意識改革に焦点が当たっているので、女性の困難に対するサポートが抜けてしまっているように思います。もう少し女性に対する能動的な言葉があっても良いように思いました。
- 事務局 現状男性より女性の方が育休等の取得率が高いという現実がある中でこのような目標となっています。全体としては、行動計画冊子 P46 の基本目標 8 の主な取組で「労働の場におけるハラスメント防止の促進」などの項目が設定されていたり、P47 にも女性の就労の支援やキャリア形成の支援について記載するなど、女性に対する能動的な取組も掲載されています。「現状と課題」の文言の中にはあまり出てきませんが、主な取組には女性に対する取組も入っています。
- 小畠委員 個人的には、「性別に関わらず」という文言では苦しいと思います。若い世代の方たちは、育休を取れるなら取りたいと考えている人が多い一方で、現実問題として収入の低下などの問題で取得できないという現実があります。そのあたりがこの文言だけでは汲み取れないように思います。
- 鎌塚副会長 この問題は、背景や個人の事情、価値観などが関係しており、その幅がすごく広がってきていると感じています。「性別に関わらず」という表現を入れることで、1 歩進んだように感じていましたが、今のご意見を聞いていると「すべての様々な事情を持った『誰もが』」社会、家庭に参画することを目指すということかなと思いました。広がった背景を全て含む良い表現がないかと思います。
- 磐村委員 男女共同参画をベースとして、「性別に関わらず」に、「誰もが」という表現を加えて「性別に関わらず誰もが」としてみてはどうかと思います。
- 高畑会長 ありがとうございます。この章は仕事、家庭、子育て、介護など様々な両立支援について記載されていますが、これらは雇用状況にかなり影響をうけると思います。そのため、これらの両立には色々なファクターがあるということを皆様からご発言いただき、その前提としては共有できたと思います。その中で、「性別に関わらず誰もが」とするというのは良いアイデアだと思いました。

◆男性の生きづらさに焦点をあてる。

- 工藤委員 「男性の生きづらさに焦点を当てる」という観点でいうと、この表現では弱いように思います。男性の中にある男性にとって良いとされていることが、男性の生きづらさにつながってしまっている点があると思いますが、時代とともにその形成されてきた「男らしさ」というものが苦しくなっているということに、男性自身が気づけていないと思っています。そこをもっと緩和できる社会にしていこうという視点が入ると良いと思いました。
- 高畑会長 刷り込まれた男性像と男性自身の人物像が違うことに対する苦しみがあると思われますが、最近はその刷り込まれる男性像に変化は起きているのでしょうか？
- 小畠委員 男性像も昔と比べてだいぶニュートラルになってきているように思いま

す。最近の男性の生きづらさとは何かを考えた時に、「男はこうあるべき」という姿を押し付けられているというより、「仕事も家事も育児もしっかりやってね」という風潮の中で逃げ場がなくなっているという方が大きいように思います。

事務局 少し話はずれますが、今年度の流れとして、審議会から当市に対して社会情勢などを踏まえ、例えば現在議論いただいている「男性という言葉フラットな表現にかえる」や「男性の生きづらさに焦点をあてる」といった大きな方向性を答申として示していただきます。それを受けて、事務局で具体的に現行動計画をどのように変更するかをお示しし、市民の皆様にはパブリックコメントでご検討いただく流れです。答申の内容とその後の計画の細かな変更内容を現在一緒に検討いただいているという状況です。そのため、事務局としてどのように変更するのがよいか、もう少し具体的にご指摘いただきたいと思います。

谷口委員 どういう言葉で表すのが良いかまともっていませんが、押し付けられた役割や自分の中に内面化した役割が生きづらさに繋がると思いますので、「外的にまた内的に私たち個人の生き方を制約し」の方に「性別役割」という言葉をつけてはどうかと思います。男性が背負っている鎧を降ろしましょう、というのがこれまでの男性論でしたが、今の方たちはここから転げ落ちたくないという不安が強いように思います。内面から個人を縛っているという考え方は世代間で差があるのではないのでしょうか。

高畑会長 「私たち」という言葉に「性別に関わらず、それぞれの立場で」という部分が内包されていると思いますので、それであれば文字数は少ない方がわかりやすいのではないかと思います。この章全体で、これまで当然視されてきた慣行があり、それを見直そうという内容になっているように思いました。

工藤委員 あえてここで男性の生きづらさに焦点を当てなくても、先ほどお話にあったような男性の育休の取りづらさみたいなものが、基本目標7の「男女共同参画の視点にたったワーク・ライフ・バランスの実現」に組み込まれているということであれば、それで良いのではと思います。家庭を優先したい気持ちがあるにも関わらず、仕事を優先せざるを得ない現状というのもここで触れられていると思います。

高畑会長 ありがとうございました。「生きづらさを抱える要因となっている場合は少なくありません。」という表現も二重否定になってしまっているので、「要因となっている場合があります。」でよいのではないかと思います。

◆『女性にも選ばれる地域づくり』を追加する。

谷口委員 事務局の説明のとおり、この計画の中に入れるのは難しいとおもいますが、前段で見直しのポイントとして「女性にも選ばれる地域づくり」を意識しているということに触れてもらえればと思います。

相澤委員 男女共同参画の問題を人口減少対策と合わせて考えることの必要性和危険性があると思っています。先ほどの「男性の生きづらさ」の話の中でもありましたが、ある年齢層から男性にも女性にも家庭を持つというこ

とに関してプレッシャーがあるように思います。家庭より仕事を優先したいと考える男性も、女性もいるという社会の中で、個人の生き方と日本社会の人口減少の問題を紐づけてしまうと、それによって生きづらさを感じてしまうかもしれないと思いました。

高畑会長 相澤委員のおっしゃるとおり、この行動計画から「結婚して家庭を持った方が良い」というニュアンスが出てしまうことは良くないと思います。

本間委員 いろんな生き方があって良いというのは、この審議会の中の前提としてずっとあることと認識しています。そうすると、この問題は新たな項目として追加するということとは別の課題として考えても良いのではないかと思います。

磐村委員 少し話が戻ってしまうのですが、資料3の④に前回の私の発言を記載していただいています、「女性政策から男女共同参画になって、また今度は人口政策という新しい流れがきている」というのは、人口政策云々というよりは、ダイバーシティとインクルージョンというか、まさに社会的包摂の流れになってきているという意味です。「第4次静岡市男女共同参画行動計画」の表紙にあるように、しっかりとこの「ジェンダー平等に基づき、全ての市民が安心して自分らしく暮らせる静岡」ということをやっていければ、あえてこの項目は追記しなくても良いのではと思います。

谷口委員 男女共同参画とは何が問題なのか、というと今ある男女における格差を解消することだと思っています。格差はどこに一番現れるかというところ経済格差に現れます。なぜ男女間で賃金格差があるかというと、やはり女性が家事労働を負担しなければならず、非正規雇用に移行せざるを得ない社会構造があったからです。女性の所得を増やす、格差をなくするためには、女性が非正規労働につかなくても良いような環境にするということで、国も様々な政策をおこなっています。もちろん、誰もが望む生き方をするというのは当然のことである一方で、子どもが6才未満の家庭では今でも、共働きであっても圧倒的に女性が家事労働を担っている現状があり、そこを変えていかなければ格差是正にはならないとおもいます。もちろん、先ほども話にあったように家族形態が変わってきて、独身の方が増えてくれば、当然女性も経済的に自立していかなければいけないわけで、どのような状況であれ、女性の所得を向上させるという点でこの家庭と仕事の両立は切り離せないし、どれも必要な施策だと思います。そういう意味で、家庭を持つことを推奨するという人口対策ではなく、静岡で働きたいと思ってもらえるような会社を増やしていくという意味での「女性に選ばれる地域づくり」だと思うので、「男女の格差をなくすことが男女共同参画である」「誰もが望む生き方ができる」ということは共通認識であると思っていただければ、その方向性はぶれないのではないかと思います。

◆基本目標8 成果指標 『25～44 歳女性の有業率』を正規女性の割合に変更する。

小畠委員 この方が非常にわかりやすく、私はこれで良いと思います。—

小森委員 この指標を用いるということは、男性の正規雇用労働者率と女性の正規

雇用労働者率の差が縮まっていくことを目標とするということによいですか。

事務局

行動計画の P53 の基本目標 8 の成果指標として、25～44 歳女性の有業率を測っています。今回変更を加えたのは P54 にあるモニタリング指標と
いって、それ自体を成果とするわけではなく、経年変化を追っていく
ために見ている指標のうち、「30 代女性の正規雇用労働者率」を成果指標
の年代と合わせたものです。また、昨今男性も非正規雇用が増えている
ことから、正規雇用労働者率が低いことが社会全体の傾向か、男女格差
なのかを把握するために、男性の正規雇用率も見べきというご指摘を
うけ、今回の案を作成しました。今後この指標を成果指標とするかどう
かは、次期の第 5 次行動計画を作成する中で検討したいと考えています。

高畑会長

ありがとうございました。男女共同参画のテーマは人の生き方に関わる
ところで、プライベートな部分にも関わるので、そこに行政が介入する
というのは難しいところもあると思います。人がどのような生き方を選
択するかというのは、その人の家庭環境や、住んでいる場所など、様々
な要因で全然選択肢がある中で、あたかも一つの共通のものがあるか
のような前提を作らなければならないというところが、難しいと思います。
そこにさらに、産業政策や人口減少の問題など外的要素が加わることで、
さまざまな課題が入り組んでいるように感じます。本日もたくさんご意
見をいただきありがとうございました。